

# 図書館だより

第2巻4号

□通巻76号□

冬季号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



▶ 雑誌の起源 (2)

2・日本最初の雑誌 木田橋喜代慎

▶ 私の出会った本 (4)

3・新穂栄蔵

▶ 利用案内

3・館外貸出の一時停止, その他

▶ 語「楽、サロン」(8)

4・木津先生の伝語ア・ラ・カ・ル・ト

・橋爪先生の独語散歩

▶ エアメール (3)

5・私がお世話になった図書館の話

太田和宏

▶ 新着案内

6・教養関係 7・経済学関係

8・法学関係 9・工学関係

11・洋書特選

▶ レファレンス・コーナー

10・辞典案内 ・キーワード ・文献解題

▶ ライブラリー特集

11・ドストエフスキー没後100年に寄せて

鈴木輝雄

▶ 古典の窓

12・隕石物語り (4)

— 隕石が語る宇宙の歴史 —

早川和夫

12・古典カレンダー

12・編集後記



雑誌の起源

日本最初の雑誌

木田橋 喜代慎



図 I

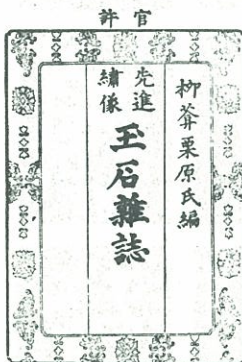


図 II

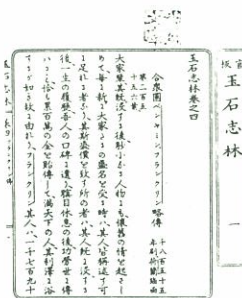


図 III

雑誌という語は、幕末明治時代の外国語からのほん訳とされている。雑誌という語が誌名の中に加えられ、そして「慶応3（1867）年に江戸の開物社から出た、日本のジャーナリズムの先覚者柳河春三の編集発行した「西洋雑誌」〔巻1（慶応3年10月（巻頭言年月）—巻6（明治2（1869）／9月／廃刊）こそ、本来の意味の自覚下に発行した最初の雑誌であった。〕といわれている。（岡野他家夫、近代日本名著解題 昭37, 257P., 現物はほん刻され明治文化全集 第5巻 雑誌編に収録され手軽に閲覧することができる。）

（図I）この巻1の巻頭に「西洋諸国には新聞紙面ありて。公私の報告。市井の風説を集め。或は毎月。或は毎7日。或は毎日これを印行して。互に新報を得るを競ふ。…」また、巻末「伏啓」（編集後記か）に「此雑誌出版の意は、西洋諸国月々出版マガセイン〔Magazin〕新聞紙の類の如く。広く天下の奇説を集めて。耳目を新にせんが為なれば。諸学科は勿論。百工の技芸に至るまで。世の益となるべき事の訳説。…」といっているが、標題に雑誌とはなっているが、必ずしも新聞と雑誌の区別は明確でない。巻1の目次をあげてみると、

○西洋諸国近代盛衰の大略（西洋歴史並に地理書の内より。…抄出して其大略を記す。）

○国を富ますには先づ學術を開くべきの論

○チャマント〔ダイヤモンド〕は天下第一高価の物なる話

○新銀并にアルミニウムと名くる金属の説

である。訳者の明記、不明記のもの、明らかに抄録と思われるものがあり、6巻、23編のうち、ロンドン・タイムスよりの1編を除いては、出典を表示していない。

さて、この「雑誌」という名称が、その意味はともかくとして、かつて使用されていなかったのかと一寸調べ、目についたものをあげてみると、

① 燕石雑誌 文化8（1811）年〔隨筆集〕

② 雲萍雑誌 天保13（1842）年〔 " 〕

③ 玉石雑誌 嘉永元（1848）年〔各階層人物の小伝集〕（図II）

以上いずれも「日本隨筆大成、第2期に収録（本館所蔵）されているものであるが、その内容からして、「雑多のことを記載した書物、雑誌」という意味では、雑記、雑編、雑纂にあたるもので、定期刊行物の雑誌ではない。

雑誌と表示することが、雑誌の条件の一つではないようである。「西洋雑誌」より数年前に刊行されたもので、次のものがある。

玉石志林 巻1—4〔蕃書調所〕〔文久1—3（1862—63）年間〕の刊行といわれている。原本学北駕文庫所蔵（明治文化全集 第7巻 外国文化篇に翻刻版、本学所蔵）各巻50枚（丁）（現在図書の100頁）内外、26×18cm 和紙 和製本、1枚（丁）25字20行（図III）

巻之1の目次を紹介すると次のとおりであるが、オランダ発行の「荷（和蘭宝函（雑誌の別称））掲載のもの、および図書、新聞類からの翻訳は1822—1855年発行のものを、適宜選択し全4巻に26編掲載されている。

① 無人島徒民記 1845年、〔小笠原諸島に触れている〕

② エング及カング（暹羅国…）1842年

③ 大地磁石極の發明 1842年

④ 婦人イダ・ヘッヘル地球周遊の記 1855年

⑤ 支那の香港島 1843年 以上いずれも和蘭宝函からのものである。

この玉石志林は安政3（1854）年秋、蕃書調所業務開始後に海外事情を知らしめるため刊行されたようで、逐次刊行を企図したのもののように見受けられる。幕末の志士達の口にされたフランクリンについては、巻之4 フランクリン略伝（図III）などが閲読され、情報源になったのではないかと推測される。類似の刊行物もあるが、刊行年不明であり、今のところ、西洋雑誌より数年前のものといつてよいと思う。（きだはし・きよなり 教養部教授）



## ((( 私の出会った本 )))

新穂栄蔵

1972年2月4日、札幌オリンピック冬季大会第2日目に、真駒内の距離競技場に、1人のアメリカ人を捜しに行った、若い選手のような女性ともう1人は中年の女性が盛んにアメリカ選手を応援していた。私は、側に行き尋ねた。「私は日本のシンボウという者だが、アメリカチームの中に、ジョン・カルドワエルという男が来ている筈だが…」と話が半分位の所で、その中年の女性は、「おお！貴方がシンボウか、彼は私の旦那よっ！」と飛びついてきた。

話はそれより2年前に遡る。現在の堂垣内知事が、北海道総合開発研究所というものを創設して、知事立候補に備えて充電中の頃、私はその機関紙の編集委員だったが、同氏が、カナダ・アメリカに視察旅行に出かける時に頼んだのが、クロスカントリーのスキーの本だった。一般スキーの本は巻に氾濫しているが、距離スキーや、今はやりの歩くスキーの本は全く見当たらない。このことは現在も変りがない。幸いにも、米国で買い求めたという本は、同国距離スキーのナショナルチームのヘッドコーチたるジョン・カルドワエルが著した「Cross-Country Skiing Today」という本である。

所が、読みはじめたら、スキー仲間だけに通用するような単語や諺、それに洒落のようなものが多く、さっぱり真意を掴めない。それから著者との手紙の往復がはじまった。やっと読み終わったのが、札幌オリンピックの前年である。そして、「来年札幌にゆく、会えるのを楽しみにしている」との便りもあり、彼の奥さんとの出会いから彼との対面を喜び会うことになったのである。この本が、日本のスキーの本と全く違うのは、ファッション的要素やカッコよさを追うような記述は全然なく、手軽な、身近な所から説き導く、極めて実際的な本であるという点でだ。例えば、適当な靴や締め金具がなかったら、古靴をスキーにねじ釘で取付けよ、シーズン前のトレーニングには、コースの草刈りや枝払いをやれば、相当の重労働ではあるが、いいトレーニングになる、といった具合である。然し、現在の日本では、このような本は喜ばれないことは確かである。残念なことである。

後日談になるが、翌年、カナダ・米国を廻った時、彼の家に一泊した。広大な斜面の林間に建つ彼の家には、きれいな沼もあり、ボート遊びや水泳もでき、果樹園や畠もあり、2人の伴と4人暮らし。彼の本職はというと、中学校の数学の先生である。

おみやげに持参した赤フンドシの締め方のコーチには相当手古摺った。

(しんば・えいぞう 工学部教授)

## 利用案内

### 館外貸出の一時停止

学年末試験が始まります。このため例年通り下記の期間は館内閲覧のみとなります。

御協力下さい。

### 貸出停止期間

2月6日(金)～2月28日(土)

### 長期貸出

春休み中の長期貸出は下記の通りです。

期 間 : 3月2日(月)～4月7日(火)

貸出冊数 : 1人2冊

### 開館時間の変更と休館

時間変更

期 間 : 3月2日(月)～4月7日(火)

時 間 : 月曜日～金曜日 9:30～18:30

土曜日 9:30～15:00

休 館 日 : 2月9日(月)～10日(火)

(入学試験会場準備及入学試験のため)

### 卒業後の図書館利用

新しく社会人となる4年生の皆さん、卒業後も図書館を大いに利用して、仕事にあるいは自己啓発に役立てて下さい。

手続きは勤務先発行の身分証明書等を提示して下さい。



木津先生

の仏語アラカルト

(8)

橋爪先生

の独語散歩

体験的フランス語のすすめ

学生ことば

先年フランス留学への途次、古い歴史を持った地域を経てヨーロッパへ入りたいたと、南廻りコースを選んだ。夜中ニューデリーを飛び立った機上から地中海を望み、機内放送にフランス語が加わると、ヨーロッパ近しと血が騒ぐ。ひどい恰好でたどりついたイスタンブールの宿は、気難しそうな小柄な老婦人が帳場を預っているような、小じんまりとしたホテルで、私のたどたどしい英語に胡散臭そうな目を向けていたが、予約してあったのでともかくチェック・イン。外出しよう、身仕舞を整えてフロントに近づくと、例の老マダムがフランス語で家人と話しているではないか。改めて、英語よりはましなフランス語で挨拶し直すと、「このムッシュ、フランス語を話すよ！」と驚歎の声を発し、それ以来私への待遇は一変した。この時がフランス語を知っていてよかったと思った初体験であった。18・19世紀には、今日の英語のように、フランス語が国際語であったことの名残りであろう。まだまだフランス語は余光を保っているのである。

Ce qui n'est pas clair n'est pas français.

(明晰ならざるものフランス語にあらず) という言葉があるが、フランス人は日本人のように「何となく」ということを許さない。常に「Pourquoi? (なぜ)」を連発して、ことの本质に迫ろうとする。フランスでは学校教育全般を通して作文を重視する。文章にすることは自己を明晰にすることであり、そこから明晰なフランス語が生まれる。この辺も学ぶべきことと常に考えている。「フランス語を知っていれば一生退屈しない」と誰かが述べていたが、ヨーロッパ文明の宝庫へ入る鍵をフランス語は与えて呉れるからであろう。

以上で2年間担当したフランス語楽サロンの締めくくりとしよう。

(きづ・りゅうじ 教養部教授)

学生、若者こそがフューチャリーズ(未来語)を造語し、外国語を移入、流布させる旗手であるのは何時の世も、また何れの国に於いても同じであろう。そこでドイツ語から入ったものを思いつくまに挙げてみると……。古くは憧れの対象としてのとてジャン(とても schön 美しい一人の意)のメツチェン(Mädchen 娘、女の子)やフラウ(Frau 婦人、奥さん)。そんな人とリーベ(Liebe 愛、また恋人の意にも)を語りあうことが出来たら……。しかしこれはダスキン(das Kind 子供)の学生メルヘン(Märchen おとぎ話)にすぎないか。剛のものにはジルゲル(Singer 芸者をいう学生ことば一本来は歌手の意。また女性歌手、歌姫なら Sängerin というべきところ)に入揚げてゲルピン(Geld お金と英語からのピンチを結びつけたもの)になるだけで済まず、とうとうドッペル(doppel 2倍、2重を意味する一の動詞化。同じ学年を2度繰り返す。落第するの意。本来のドイツ語では durchrasseln が近い)はめになった仁もいたのでは。昔の学生はエッセン(Essen 食事)とかズッペ(Suppe 本来はスープの意だが味噌汁のこと)とか、とかくドイツ語を使いたがったようだが、最近の学生諸君はドイツ語に縁遠くなったのか、まったく日本語化した、テーマ(Thema)とかカテゴリー(Kategorie)とかのたまうのを耳にするだけで寂しいかぎり—その代わりアルバイト(Arbeit ドイツ語では本来の仕事の意)にはエネルギー(energetisch 精神的)にうちこんでいる様子…失礼。ガイスト(Geist 精神)とかイデー(Idee 理念)とかいうのはゼミ(Seminar)の学生ぐらいなもの…これまた失礼。かくしてドイツ語は今や世人にアレルギー(Allergie)を惹き起こすバチルス(Bazillus 桿状細菌。比喩的に社会に害毒を流すもの)とみなされるゲバ学生(Gewalt 権力とか、暴力の意。ゲバルトを略してゲバ)とともに消えるのか? — 嗚呼、やんぬるかな!

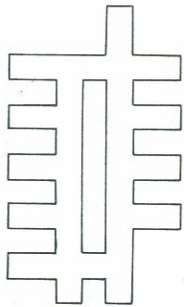
(はしづめ・たつお 教養部助教授)



## 私がお世話になった 図書館の話

太田 和 宏

ビーレフェルト大学は、ビーレフェルト市街のはずれ、トイトブルクの森を切り開いたところに忽然と出現した巨大なセメントの塊だった。建物は8～9階建てで、図のように回廊部分とそこから左右につき出た9つの翼のような部分とからなる。



前者は連結用で後者は各学部用だ。それはさながら軍艦のような威容であたりを圧倒している。戦後設立されたドイツの大学がそうであるように、この大学も徹底した合理性の見地から作られている。内部もまさに軍艦のように機能的で、必要なところには必要なものが味も素っ気もなく備えつけられている。天井には通風用の、直径70～80cmもする管が何本もうねっている。(大学には他に学生寮その他の建物があるが、それらを見ていると全くのところ現代ドイツの建築設計者は美的感覚を失ってしまったのかと訝がられてくる。もっともやたらに芸術性をふりまわし、実用的に不便なもの困りものにはちがいないが)。

この建物の2階部分は全部ぶちぬきで図書館になっている。(1階は回廊部を除いて図書館の地下として使われ、雑誌がおかれている)。すべて開架式で、学生は経済学部から工学部まで自由に歩きまわって本を手にとってみれるわけだ。市民にも公開されている。設立後11年しかたっていないので本はそれほど多くはない(そして古い本が少ないのがとりわけ残念だ)。書架は一学部当り優に百を越える数が整然と並び、本はむしろ閑散として、あちこちに十分すぎるほどの隙間がとってあって、幾世代もかけてひとつのものを作りあげていくドイツ人の息の長さを如実に示している。

本は徹底したコンピューターシステムの下に管理されている。まず全館統一のマイクロフィッシュで本を探す。すべての本に分類番号とコンピューター用整理番号があり、書架で探すためには前者を、書架になかった場合カウンターに予約注文するためには後者を控える。コンピューター管理の長所はしかし、単に本の貸し

出し返却時の事務の簡素化と省力化にだけあるのではなく、むしろ研究の遂行上においてよりよく発揮される。たとえば、「ルール工業史」というタイトルをコンピューターにうちこんでやると、その内容にかかわるものでこの図書館にある本119点が瞬時に画面に示される。概念を広くすれば点数はふえ、狭くすれば減る。そしてピックアップされた本すべてにつき、それぞれ探索上の細かい情報を与えてくれるというぐあいである。

ところで、ある時私はある基礎的な資料に関する本を書架で探したがなかったので、カウンターに行ってコンピューターで調べてもらった。係員は画面をのぞきこんで「貸出中です」と答えた。本の性質上歴史学部の教員によって借り出されている可能性が強く、もしそれが知り合いの教員だったら個人的に見せてもらえるかもしれないと私は考え、「誰が借りていますか？」と質問した。すると係員は「それを言う必要はない」とやや厳しい口調で答えた。私は外人に対する冷たさのせいかと頭の隅で感じつつ、再び質問した。「なぜ?」「それは借り出した人の権利だから。」—私は小さな衝撃に襲われた。"なるほど、なるほど、これが市民社会というものか。"

思想の自由・プライバシーの権利はこれほどに厳格なものなのか。人は思想上の営為のみならず、個人的な趣味や性向についても他人に知られたくない権利をもち、したがって「誰がどんな本を読んでいるか」ということは、係員にとっては「職務上知りえた秘密」に相当するわけである。

ふりかえてみると、大学院時代は誰が借り出しているか聞くのはふつうのことで、その人から本を又借りしてコピーをししばしばしていたし、また本学の図書館では貸し出しカードによって、自動的に過去の閲覧者がわかる仕組みになっている。私などは本学の図書館で本を借りようとして貸し出しカードに記入する時、カードに親しい同僚の名前を見つけて「ああ、あの人も読んでいるのか、と不思議な親近感を抱くことがある。日本的なあいまいな馴れ合いの慣行に深く侵されているのであろう。しかし考えてみれば、もし日本が、戦前型かソ連型か知らぬが再び不自由な国となった場合には、こうした慣行は異端者を狩り出すための危険な道具となりかねないわけだ。あとで友人に聞いて知ったのだが、日本でも一部の大学で、とりわけ法学部の図書館で、こうした慣行を打破し、プライバシーの権利を保護する方向に変わりつつあるという。本学にとっても一考を要する課題ではないだろうか。(おおた・かずひろ 経済学部助教授)

# 新着案内

## — 教 養 関 係 —

(昭和55年10月以降に受入、整理された図書のうち)  
主なものを選択して掲載しています。

- ものと人間の文化史 36 拵 37 経木 38 色 法政  
大学出版会 1980 081 H51
- 言語と哲学の世界 A.C.ダントウ著 社会思想社  
1980 101 D39
- 日本思想大系 31 山崎闇斎学派 家永三郎〔等〕  
編 岩波 1980 121.08 N77
- ソクラテスの思想と教育 村井実著 玉川大学出  
版部 1980 131.22 Mu 41
- 哲学の否定 — ヴィトゲンシュタイン — W.  
シュルツ著 二玄社 1980 134.9 Sc 8
- ユングの人間論 C.G. ユング著 思索社  
1980 146 J 95
- 世界現代史 28 北歐現代史 山川出版 1980  
209.6 Se 22
- ソ連邦史 1 - 3 G. ボッフア著 大月書店  
1979 - 1980 238 B62
- 世界山岳地図集成 — カラコルム・ヒンズークシュ  
編 学研 1980 290 Se 27
- 日本図誌大系 1 2 — 北海道・東北 — 山口恵  
一郎〔等〕編 朝倉書店 1980 291.038 N77
- 日本の自然と社会 — 写真集 — 建設省国土地理  
院撮映監修 1979 291.08 Ke 51
- 写真集日高山脈 鮫島惇一郎〔等〕撮映 札幌  
道新 1979 291.1 Sa 57
- 現代社会学大系 12 権威主義的パーソナリティ  
日高六郎〔等〕編 青木書店 1980 360.8 G34
- 孤独の追求 — 崩壊期のアメリカ文化 — P. ス  
レイター著 新泉社 1980 361.6 S1
- 人物日本の女性史 — 図説 — 全12巻 小学館  
1980 367.21 J52
- 学校の歴史 1 - 5 仲新監修 第一法規  
1979 370.8 G16
- Fortran 語解説 大河内正陽 佐藤創著 実教出  
版 1976 549.9 O55
- 新技法シリーズ 70 85 109 - 115 美術出版社  
1978 - 1980 708 Sh 62
- 印刷文明史 1 - 5 別巻 島屋政一著 五月書  
店 1980 749.2 Sh 44
- 現代のスポーツ科学 — 講座 — 2 スポーツと  
エネルギー・栄養 大修館 1979 780.8 G34
- 日本の言語学 1 言語の本質と機能 服部四郎  
川本茂雄 柴田武編 大修館 1980 801 N77
- ことばへの道 — 言語意識の存在論 — 長谷川宏  
著 勁草書房 1978 801.01 H36
- ホモ・ロクエンス — ことばを話す動物としての  
人間 — D.B. フライ著 こびあん書房 1980  
801.1 F49
- 文章作法の基礎 — 句読点から文章構成まで —  
大類雅敏著 一光社 1980 816 O71
- 北海道文学全集 1 - 12 小笠原克 木原直彦  
和田謹吾〔等〕監修 立風書房 1980 910.8 H82
- 昭和万葉集 1 - 20 別巻 講談社 1980  
911.16 Sh 97
- 校注俳諧御傘 赤羽学編著 岡山 福武書店  
1980 911.3 A29
- 石川啄木全集 全 8 巻 石川啄木著 金田一京助  
〔等〕編 筑摩書房 1980 911.56 I 76
- 革命商人 上・下 深田裕介著 新潮社 1979  
913.6 F71
- 加藤周一著作集 5 日本文学史序説下 加藤周一  
著 平凡社 1980 918.6 Ka86
- 吉田健一著作集 1 - 28 吉田健一著 篠田一士  
清水徹 丸谷才一編 集英社 1980 930.8 Y86
- フランス文学講座 5 詩 6 批評 福井芝男〔等〕  
編 大修館 1979 950.8 F43



- ケインズ全集 1-6 10 J.M.ケインズ著  
東洋経済新報社 1980 331.39 K67
- サミュエルソン経済学大系 2 消費者行動の理論  
P.A. サミュエルソン著 勁草書房 1980 331.39  
Sa59
- J.S. ミル初期著作集 2- 1830-1834-J.S.ミル  
著 御茶の水書房 1980 331.32 Mi 27
- 大塚金之助著作集 1 2 4 7 大塚金之助著  
岩波 1980 330.8 O88
- 国際決済銀行年次報告書 9 10- 昭17- 昭19-  
金融研究会編 日本経済評論社 1980 338.98  
Ko51
- 経済学 1 資本主義経済の基礎理論 桜井毅著  
有斐閣 1980 331.01 Sa47
- 経済学から経済政策学へ 市川泰治郎著 新評論  
1980 331.01 I 14
- 現代経済学-その現状と展開-伊東光晴 新飯田  
宏著 日本評論社 1980 331.01 I89
- テキストブック現代経済 柏崎利之輔 稲毛満春  
池本清編 有斐閣 1979 331.01 Ka77
- 資本論と日本経済 川上正道著 有斐閣 1980  
331.34 Ka94
- 経済人類学序説 M.ゴドリエ著 日本ブリタニ  
カ 1980 331.01 G55
- 人間の経済 1 市場社会の虚構性 K.ポランニー  
岩波 1980 331.01 P76
- 日本経済展望 香西泰 荻野由太郎著 日本評論  
社 1980 332.1 Ko81
- アメリカ経済史-人間と技術の役割-S.ブルシェ  
イ著 日本経済評論社 1980 332.53 B78
- 二重経済論-インドネシア社会における経済構造  
分析- J.H.ブーケ著 秋董書房 1979  
332.24 B62
- 世界経済論を学ぶ 森田桐郎 本山美彦編 有斐  
閣 1980 333.6 Mo66
- フランス資本主義研究序説 原輝史著 日本経済  
評論社 1979 333.935 H31
- 経営管理概論 井上昭一 仲田正機 渡辺峻著  
文理閣 1980 335.9 I57
- インフレと金融の経済学 飯田繁編著 京都  
ミネルヴァ 1979 337.9 I26
- フリードマンの貨幣理論 M.フリードマン著  
マクロウヒル好学社 1978 337.1 F47
- 減速成長下の金融機関 上・下 川口宏著 日本  
経済評論社 1980 338.3 Ka92
- 不動産金融論 杉本正幸著 巖松堂 1930  
338.64 Su38
- 日本金融史資料 昭和統論 8 日本銀行調査局  
編 大蔵省印刷局 338.2088 N77
- 国際通貨 滝沢健三著 新評論 1980  
338.97 Ta73
- 現代財政学 1 現代財政の理論 藤田晴 貝塚啓  
明編 有斐閣 1980 341.1 F67
- 財政学 高橋誠 柴田徳衛編 新版 有斐閣  
1980 341.1 Ta33
- 日本の財政-図説-昭和55年版 岸田俊輔編  
東洋経済新報社 1980 342.1 N77
- データの図典 井上啓次郎編 ラティス 1980  
351 I57
- 賃金センサス 昭和54年 1-7 労働省統計情  
報部編 労働法令協会 1980 336.43 R59
- 婦人労働の実情 昭和55年 労働省婦人少年局編  
大蔵省印刷局 1980 336.35 R59
- 石炭-昨日・今日・明日-水沢周著 築地書館  
1980 567 Mi96
- イギリス海外貿易の研究 1870-1914 S.B.ソ  
ウル著 文真堂 1980 678.233 Sa91

# 新着案内

## 法律関係

- 毛沢東の悲劇 1-5 柴田穂著 サンケイ新聞社 1979 312.22 Sh18
- 福祉国家と福祉社会 — 幻想と現実 — W. A. ロブソン著 東大出版会 1980 313 R55
- サンセット法概説 — アメリカ各州における実際 森田徳著 公務職員研修協会 1980 314 Mo66
- 行政学講座 1-5 辻清明(等)編 東大出版会 1976 317.1 G99
- 行政機構図 昭和55年版 行政管理研究センター編 同編者 1980 317.2 G99
- キッシンジャー秘録 1 2 H. キッシンジャー著 小学館 1979—1980 319.53 Ki59
- 暮しのための法律 1981 加藤一郎 遠藤浩編 第一法規 1980 320 Ka86
- 人たちの言葉その析に 牧野英一著 有斐閣 1980 320.4 Ma35
- 学説判例整理シリーズ 5 条解・刑法1 下村康正編 三省堂 1980 320.8 G16
- 現代法律学講座 3 法思想史 14 民法6-2 28 刑事訴訟法 29 刑事学 青林書院新社 1980 320.8 G34
- 判例コンメンタール 8-10 刑法1-3 大塚仁編 三省堂 1976-1980 320.98 H29
- 法律学全集 7-2 公務員法 41 刑法各論 鈴木竹雄(等)編 有斐閣 1980 320.8 H89
- ポケット注釈全書 1 刑法 小野清一郎監修 有斐閣 1980. 320.8 P76
- 基本判例双書 憲法・民法・刑法・民事訴訟法 同文館 1980 320.98 Ki17
- 権利のための法学入門 深田三徳 駒城鎮一著 京都 ミネルヴァ 1980 321.01 F71
- トピックと法律学 — 法学的基礎研究への試論 — T. フィーベック著 木鐸社 1980 321.01 V68
- 近代自然法学と権利宣言の成立 種谷春洋著 有斐閣 1980 321.1 Ta86
- 法社会学と実験主義法学 及川伸著 京都 法律文化社 1980 321.4 O32
- ヨーロッパ法史論 H. コーイング著 創文社 1980 322.3 C83
- 英米法総論 上 田中英夫著 東大出版 1980 322.93 Ta84
- 現代家族法大系 4 相続1 中川善之助先生追悼 有斐閣 1980 324.6 G34
- 商法略説 龍田節編 有斐閣 1980 325.1 Ta95
- 企業合併の分析 — 国際比較 — 池田勝彦 土井教之著 中央経済社 1980 335.2 I32
- 現代社会と新しい刑法理論 板倉宏著 勁草書房 1980 326.01 I87
- 判例刑法研究 1 3 5 西原春夫(等)編 有斐閣 1980 326.098 H29
- 刑法講義 総論 香川達夫著 成文堂 1980 326.1 Ka17
- 刑法各論 三原憲三著 成文堂 1980 326.2 Mi17
- 犯罪学入門 藤本哲也著 立花書房 1980 326.3 F62
- 刑法学 各則 井上正治 江藤孝著 全訂 京都 法律文化社 326.2 I57
- 刑事政策 石原明(等)著 改訂 青林書房新社 1980 326.3 I74
- 死刑再考論 斉藤静敬著 新版 成文堂 1980 326.41 Sa25
- 刑事裁判の拘束力 田口守一著 成文堂 1980 327.615 Ta19
- 国際条約集 横田喜三郎 高野雄一編 第5版 有斐閣 1980 329.9 Y78
- 非行臨床 井上公大著 創元社 1980 369.45 I57



街・明治大正昭和 — 関東編 — 村松貞次郎監修  
都市研究会 1980 291.08 Ma 16

1974年伊豆半島沖地震 1978年伊豆大島近海地震  
災害調査報告 日本建築学会 1980 453.2 N 77

1978年宮城県沖地震災害調査報告 日本建築学会  
編 同編者 1980 453.2 N 77

構造力学演習 星谷勝著 鹿島出版会 1980  
501.34 H 92

構造材料実験法 谷川恭雄〔等〕著 森北出版  
1980 501.5 Ta 87

技術の歴史 1-5 7-9 11 C. シンガー  
〔等〕編 筑摩書房 1978-1980 502 G 43

コンクリート標準示方書 昭和55年版 土木学会  
コンクリート委員会編 同編者 1980 511.7 D 81

土木施設復旧工法設計要覧 土木施設防災工法研  
究会編 山海堂 1980 513.3 D 81

廃棄物の利用と清掃技術 1980 環境行政調査会  
編 同編者 1980 519 Ka 56

住みよい町づくり — 都市問題と考え方 — 谷藤  
正三 谷藤正典著 森北出版 1980 519.8 Ta 87

21世紀への育都論 — 都市は人間によって創られ  
る — 渡部与四郎著 技報堂 1980 519.8 W 46

都市のゆくえ — 新しい都市計画の方向 — P. ウォ  
ルフ著 大阪 ビジネスリサーチ 1980 519.8 W 84

建築形態のダイナミックス 上・下 R. アルンハ  
イム著 鹿島出版会 1980 520.1 A 79

建築について 上・下 F. L. ライト著 鹿島出版  
会 1980 520.1 W 94

日本建築学会北海道支部研究報告集 52 53 日  
本建築学会北海道支部編 同編者 1980 520.5 N 77

GA—グローバル・アーキテクチャー—50—54 二  
川幸夫企画撮影 ADA 1979-1980 520.8 G 52

世界現代建築写真シリーズ 09 商業施設 010  
体育施設 集文社 1979-1980 520.8 Se 22

懐霄館 — 白井晟一の建築 — 辻邦生 磯崎新著  
中央公論社 1980 520.8 Ts 41

日本の建築〔明治大正昭和〕5 村松貞次郎編  
三省堂 1980 521.08 N 77

日本の民家 2 — 農家 2 — 宮沢智士編 学研  
1980 521.86 N 77

日本近代建築総覧 — 各地に遺る明治大正昭和の  
建物 — 日本建築学会編 技報堂 1980  
523.021 N 77

分り易く図で学ぶ建築構造力学 江上外人著  
共立出版 1980 524.1 E 28

建築防火教材 日本火災学会編 新版 工業調査  
会 1980 524.94 N 77

建築物の遮音性能基準と設計指針 日本建築学会  
編 技報堂 1979 524.96 N 77

[Entwurf und Planung] E+P 28 29 — 設計  
と計画 — 集文社 1979-1980 525.08 E 63

建築設計資料集成 3 — 単位空間 1 — 日本建築  
学会編 丸善 1980 525.108 Ke 41

特殊コンクリート造関係設計規準同解説 日本建  
築学会編 同編者 1979 525.52 N 77

タウンハウス — 町家の再生 — 上田篤編 鹿島  
出版会 1980 527.8 U 32

産業火災 日本産業火災会資料編集部編 新改訂  
増補版 同編者 1980 525.9 N 77

集合住宅 増沢洵 大庭慶雄著 井上書院 1980  
527.8 Ma 69

住宅の造園 — 住環境と庭 — 大山陽生著 鹿島  
出版会 1980 629.1 O 91

港湾整備と地域開発 鷹取稠著 産学社 1980  
683.9 Ta 54

## レファレンス・コーナー

### 辞典案内

- ラールス 角川世界名辞典 今西綿司 河盛好蔵  
監修 角川 1980 031 L 32
- 国史大辞典 1-2 吉川弘文館 1980  
210.03 Ko 53
- 図解による法律用語辞典 増補新版 自由国民社  
1980 320.3 Z 6
- 経済学大辞典 1-3 熊谷尚夫 篠原三代平編  
第2版 1980 330.3 Ke 29
- 土木工学事典 久保慶三郎〔等〕編 朝倉書店  
1980 510.3 D 81
- 建築学便覧 1計画 日本建築学会編 第2版  
同編者 1980 520.3 Ke 41
- 例解古語辞典 佐伯梅友 森野宗明 小松英雄編  
三省堂 1980 813.6 R 25
- 研究社新英和大辞典 小稲義男〔等〕編 第5版  
研究社 1980 833.1 Ke 45
- 小学館ランダムハウス英和大辞典 パーソナル版  
全1巻小学館 1980 833.1 Sh 95
- 英語基本動詞辞典 小西友七編 研究社 1980  
835.5 E 37

### キーワード

#### アクセス権

アクセスとは、「接近・利用」という意味で、アクセス権(right of access)は英米法では古くから認められている権利です。

アクセス権には、政府情報を知る権利(情報アクセス権)と、マス・メディアの情報(機関)に接近しこれを利用するというメディア・アクセス権があります。

現代社会のように、メディアが独占化・巨大化するに至りますと、情報の送り手(メディア)と、受け手(市民・国民)の分離が生じます。そこで受け手が表現手段を確保し、国政に関与するのに必要な、様々の情報を確保する為に、政府機関やマス・メディアに接近し、これを利用する為の法理論が必要となります。

最近では、自由民主党がサンケイ新聞に掲載した日本共産党批判の意見広告をめぐって、アクセス権の一種としての反論権(反論の為の紙面利用の要求)が問題となっています。

— 文 献 —

- アクセス権—誰のための言論の自由か—J. A. バロン著 清水英夫〔等〕訳 313.19 B 24  
アクセス権 堀部政男著東大出版会 313.19 H 87

## (文) (献) (解) (題)

### 外国の百科辞(事)典

#### アメリカの百科事典

Encyclopedia Americana N.Y. Grolia International Corp. 1979. 30巻 033 E 58

アメリカの芸術・科学・社会科学などの分野に力点が置かれている。特に科学・技術に関する項目は正確に記述されている。総項目数約5万3千。

#### イギリスの百科事典

Encyclopaedia Britannica Chicago, Britannica Corp. 1974. 30巻 033 E 58  
1768年英国で創刊。3巻、第2版以後、逐次増巻。1943年からは米国で刊行され、現在に至っているが、その内容は常に人文科学を中心とした事項が多く取り上げられていた。しかし1974(第15版)の改訂版は、人文科学の他に科学、技術に関する事項を非常に多く追加している。科学及び技術の占めるその比率は全体の40%に達している。またこの事典、全30巻を3部に編成している。

- ①Macropaedia (大項目編, 19巻, 4207項目)
- ②Micropaedia (小項目編, 10巻, 10万項目)
- ③Propaedia (総括編, 1巻, 総括編とは、知識の全体を体系的に総括概観していることを言う。)

#### ドイツの百科事典

Meyers enzyklopädisch Lexikon, Mannheim, Bibliographisches Institut, 1972, 25巻(他に地図1巻, 補遺1巻) 034. Me 95

西ドイツ関係事項と現在西ドイツで活躍している人物を多く取り上げている。25万項目のうち百項目の著者名入り特別寄稿, 挿図, 2万6千葉収録。

#### フランスの百科事典

Grand Larousse encyclopédique, Paris, Larousse, 1960-1963, 10巻(外に補遺2巻)035. G 77

ヨーロッパ文学, 歴史, 人名等に力点をおいている。特に人名については、有名人に留まらず普遍かつ広範に、他の事典に扱われていないような人物を多く取り入れている。項目数は約20万。



## ドストエフスキー没後100年に寄せて

鈴木輝雄

レニングラードは緑の美しい街である。帝政時代の面影をとどめる街並はモスクワやキーエフとは違った一種独特の、「即席料理」では味わえないどっしりとした伝統的雰囲気をつくり出している。

このレニングラードの最も賑やかな街路であるネフスキー通りのはずれ、アレクサンドルネフスカヤ大修道院の中庭の一角に、ドストエフスキーは静かに眠っている。

フォードル・ミハイロヴィッチ・ドストエフスキーは1821年10月31日モスクワに生れ、数奇な運命をたどってついに作家として成功し、その名声の中で1881年1月28日ペテルブルグ（今のレニングラード）において惜しまれつつ亡くなった。19世紀ロシアの作家の中でドストエフスキーくらい波乱にみちた人生を経験した作家は他に例をみないであろう。

ペトラシェフスキー事件に関係したかどでのシベリア流刑、辺境の町での兵役、そしてペテルブルグに帰ってくるや否やヨーロッパへの流浪の旅——このあてどないヨーロッパの旅は晩年になるまでつづけられる。ドストエフスキーの作品には「罪と罰」にしても「カラマゾフの兄弟」にして

も、不思議な程ロシアの自然や大地が姿を現さない。これはトルストイやツルゲーネフなどに比べるとき奇異ともいえる現象である。その一因はドストエフスキーが都市に生れ都市に育った「市民」であったこともさることながら、人生の大半を旅から旅に明け暮れていて、ロシアの美しい白樺の森や、滔々と流れるヴォルガや、果しなくつづく緑の草原など落着いて眺めることができるような状況になかったことがあげられるかも知れない。最もドストエフスキーにとっては、ロシアの自然などはどうでもいいことで重要なことは人間そのものであり、それ以外の事は彼の眼中にはなかったものようである。

一度足を踏み入れると、二度とふたたびその世界から脱出することは出来ない、それは出口のない複雑で抽象的な迷路のような空間であり、自然とよりも靈魂や神と一層深い係り合いをもっている、これが正に人間存在の真実の姿なのである——ネフスカヤ大修道院の墓石に刻まれたドストエフスキーの彫像はそんな風に訪れる人に語りかけているようであった。

(すずき・てるお 教養部助教授)

## 洋書特選

教養関係\*\*\*出版年鑑を二つ。International books in print; 1979, 2 vols は USA 以外で出版された英語の出版年鑑 (025・I 57)。もう一つは露語の出版年鑑 Ежегодник книги, СССР: 1977 (025・38・E 97) The encyclopedia Americana, 30 vols (033・E 58) は国際版でコンパクトにまとまった百科辞典。他に言語学のレファレンスブックとして, Bibliographie linguistique de l'annee : 1976 (803・1・B 41) がある。

経済学関係\*\*\*アメリカの金融史 Documentary history of banking and currency in the United States, 4 vols (338・253・Kr 7)。古典では The economics of David Ricardo, by Samuel Hollander (331・32・H 83) はトロント大学の古典派経済学シリーズの第2巻。

ほかに法律関係では Freewill and responsibility, by Anthony Kenny (326・01・Ke 49)。工学関係では Developments in close range photogrammetry (512・7・A 94) は写真測量の書。

語・感・六・感  
— あなたの翻訳 —

名著冒頭の一節から作者と作品をお当て下さい。

Ihr naht euch wieder, schwankende Gestalten, Die früh sich einst dem trüben blick gezeigt. (Christian Wegner 版)

前回の解答: 「すべての人間は、生れつき、知ることを欲する。」アリストテレス『形而上学』(アリストテレス全集12 岩波書店)

隕石物語り その4

**隕石と人** これまで3回にわたる隕石物語りには3人の人物が登場しました。隕鉄の化学分析を行ったクラーク先生、白萩隕鉄から日本刀を作った榎本武揚氏、そして光珠内隕石を目の前で捨てた田中勝さんの3人です。これらの人々がいなかったら隕石物語りは無味乾燥なものとなっただろう。

**隕石大国日本** 今日まで日本国内に落下し、発見された隕石は僅かに35個で、日本は隕石の少ない国でした。ところが昨年(1980)のはじめに、日本南極越冬隊が4,000個の隕石を南極から持ち帰り、一躍して世界一の隕石大国となりました。採集に当たった矢内桂三さん(国立極地研究所助教授)によると、隕石は雪氷の上に黒い点になって見えるそうです。これらの隕石はすべて東京都板橋の国立極地研究所(永田武所長)に大切に保管され、世界中の科学者の注目を浴びています。

こうした情勢に対応して、昭和55年10月日本学術会議第80回総会は隕石科学振興のために国立隕石センターの設立を政府に勧告しました。当時学術会議会員であった菅原勝彦さん(本学法学部教授)はその時をふり返って、「非常に夢のある計画でしたので満場一致できまりました」と述べています。

**隕石と地球岩石の区別** 隕石は大別して石質隕石と鉄隕石(隕鉄)の2種があります。代表的石質隕石はコンドリュール(粒)と呼ばれる直径1mmほどの小粒子を多く含むことで地球岩石と区別で

きます。また隕鉄はニッケルと鉄の合金で特殊の結晶構造を持つことから、地球の鉄鉱石と区別することができます。






クラークと榎本が扱ったのは隕鉄で、北海道でただ一つある光珠内隕石は石質です。

**隕石の科学的価値** 隕石の研究が進むにつれて、隕石の年令が測定されるようになりました。その結果、驚いたことに隕石の平均年令は約46億年となりました。ところが地球の年令も約46億年ですから、隕石は地球と同時に出来たこととなります。つまり地球は隕石の集合体で、その後自分の発する熱によって融けたため昔の姿を失っているのにくらべ、隕石は原始の姿を残しているのです。太陽系のロゼッタストーンの役割を果たしています。

隕石は天文学的かつ地質鉱物学的に見て、貴重な情報を内蔵する稀有の物質です。

**隕石研究と私** 巨大な隕石が秒速10数kmで地球に突入すると爆発してクレーターを生成します。これが隕石孔です。12年前アメリカ留学をした時、アリゾナ隕石孔を調査してから、私の学問的興味は隕石よりも隕石孔に向けられるようになりました。隕石孔の岩石を粉にしてエクス線分析したり、薄く切って顕微鏡で調べます。これも地球の生成の謎を解く方法のひとつです。さて今回を以て隕石物語りを終りますが、4回にわたってご愛読いただいたことを感謝して筆を擱きます。又紙上でお会いしましょう。さようなら。

(はやかわ・かずお 工学部教授)

	いまや 越し方も行く末も心になく 現在のみが——私達の幸福 『ファウスト第二部』(岩波文庫)	ゲ   テ	名 句 四 季 選	デ モ ク リ ト ス	節度抑制は 喜びを増し 快楽をより大とする 『知者たちの言葉』(岩波新書)	
	テレマン 生誕 300年 Telemann 1681-1767 ターフェルムジーク Musique de Table によって知られるテレマンはバッハよりも早く生れ、バッハよりも長く生きた。ターフェルムジークとは“食卓の音楽”のことである。	カ レ ン ダ   '81「冬」	古 典  	ミクロ・コスモスの原点 —アレキサンドリア図書館の科学者たち 今話題の本『コスモス』(セーガン著)がアレキサンドリア図書館にふれている。地球を測ったエラトステネス、星座図のヒッパルコス、『原論』のユークリッド、「ユリイカ」の人アルキメデスなどがもう一つのコスモス(秩序)を形づくっていた。		

編集後記

▶1巻3号より連載の“語楽サロン”と4回連載の“隕石物語り”は今回でお仕舞です。木津・橋爪両先生、長い間ありがとうございました。▶早川先生、大隕石が落ちてこてきましたら——隕石物語その(5)——をお願いします。ありがとうございました。  
 ▶次号は4月10日発行の予定です。

北海学園大学附属図書館報「図書館だより」Vol. 2 No. 4 (通巻76号) 1981年1月10日発行  
 北海学園大学附属図書館発行 062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 電話011-841-1161(代表)  
 内線、総務係272 整理係273 閲覧係274~275